

☆ イオン

原子が電子を失うか、取り入れることによって\_\_\_\_\_をもった粒子

イオンを含む\_\_\_\_\_は電気を導く

☆ 安定な電子配置

\_\_\_\_\_の元素の電子配置 ← \_\_\_\_\_元素ともいう

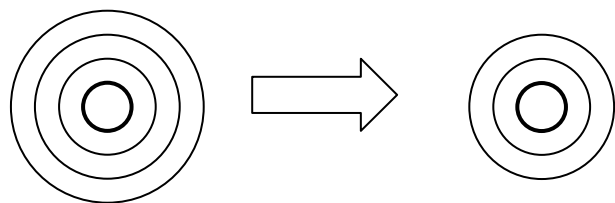
\_\_\_\_\_の6種類存在

すべて\_\_\_\_\_として存在 → 非常に\_\_\_\_\_で結合をつくらない

K	L	M	N
→			
→			
→			

価電子が\_\_\_\_\_である

☆ 陽イオンの生成



陽子の数 \_\_\_\_\_

電子の数 \_\_\_\_\_

電 荷 \_\_\_\_\_

陽子の数 \_\_\_\_\_

電子の数 \_\_\_\_\_

電 荷 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_元素の電子配置 ← \_\_\_\_\_元素(Hを除く)ともいう

\_\_\_\_\_の6種類存在

水と\_\_\_\_\_ → 反応性が\_\_\_\_\_

K	L	M	N	K	L	M	N

\_\_\_\_\_の元素(Be・Mgを除く) ← \_\_\_\_\_元素ともいう

\_\_\_\_\_の4種類存在

水と\_\_\_\_\_ → 反応性が\_\_\_\_\_

K	L	M	N	K	L	M	N

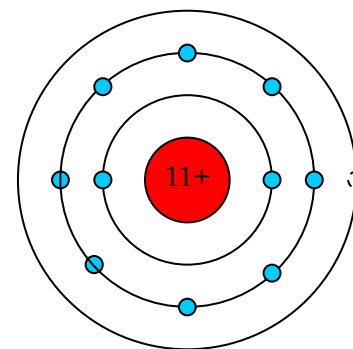
その他の2族元素

K	L	M	N	K	L	M	N

13族

K	L	M	N	K	L	M	N

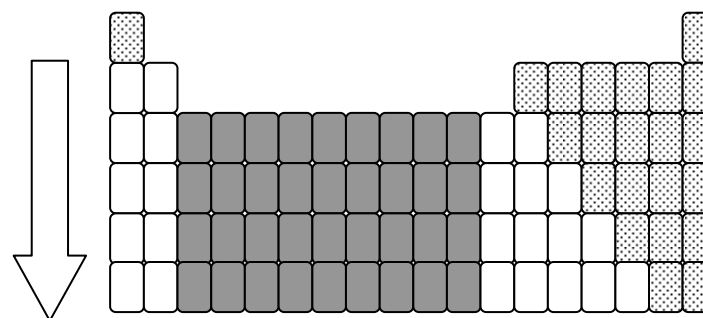
[(第一)イオン化エネルギー]



イオン化エネルギー \_\_\_\_\_

→ \_\_\_\_\_になりやすい

原子が電子を\_\_\_\_\_イオンになるとき必要な最小のエネルギー

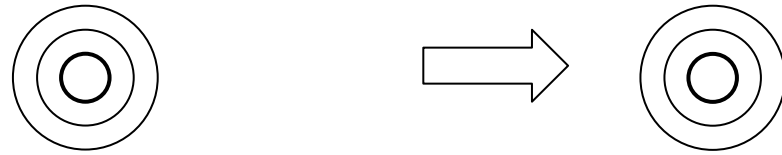


最外殻電子が\_\_\_\_\_ (同じ周期)

原子半径が\_\_\_\_\_ (同じ族)

1年 組 番 氏名

☆ 陰イオンの生成



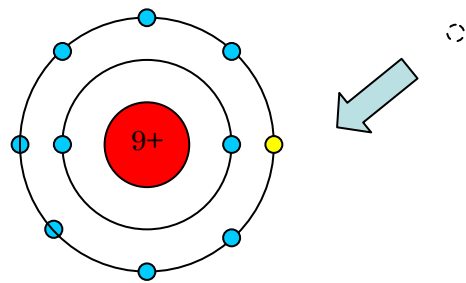
陽子の数	陽子の数
電子の数	電子の数
電 荷	電 荷

\_\_\_\_\_の元素 ← \_\_\_\_\_ともいう  
 \_\_\_\_\_の5種類存在 → 反応性が\_\_\_\_\_

K	L	M	N	K	L	M	N
→							
→							

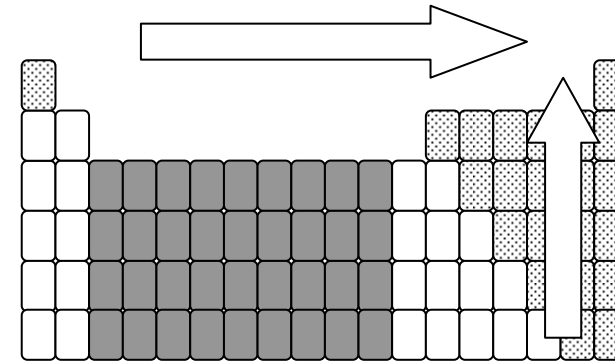
K	L	M	N	K	L	M	N
→							
→							

[電子親和力]



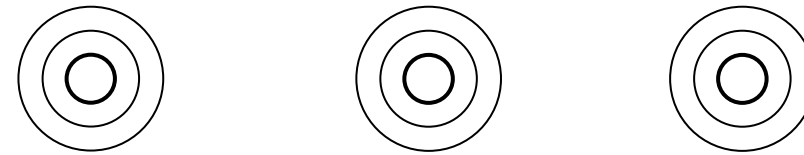
電子親和力 \_\_\_\_\_  
 → \_\_\_\_\_になりやすい

原子が電子を\_\_\_\_\_イオンになるときに放出されるエネルギー  
 (18族は電子親和力がない)



最外殻電子が\_\_\_\_\_ (同じ周期)  
 原子半径が\_\_\_\_\_ (同じ族)

☆ イオンの大きさ



同じ電子配置のイオンでは原子番号が大きくなるほど、半径が\_\_\_\_\_

イオンの種類とイオン式

		陽(+ )イオン		陰(- )イオン	
1価	1族	H <sup>+</sup> Li <sup>+</sup> Na <sup>+</sup> K <sup>+</sup>	17族	F <sup>-</sup> Cl <sup>-</sup> Br <sup>-</sup> I <sup>-</sup>	
		Ag <sup>+</sup> NH <sub>4</sub> <sup>+</sup> (Cu <sup>+</sup> )		NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> OH <sup>-</sup> HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup>	
2価	2族	Mg <sup>2+</sup> Ca <sup>2+</sup> Sr <sup>2+</sup> Ba <sup>2+</sup>	16族	O <sup>2-</sup> S <sup>2-</sup>	
		Zn <sup>2+</sup> Cu <sup>2+</sup> (Fe <sup>2+</sup> )		SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> CO <sub>3</sub> <sup>2-</sup>	
3価	13族	Al <sup>3+</sup> Fe <sup>3+</sup>		PO <sub>4</sub> <sup>3-</sup>	